

モダン都市大阪の場所の記憶と場所の力 —大阪市港区を事例に—

市道 寛也

大阪市立大学大学院 文学研究科 人間行動学専攻

地理学専修 後期博士課程1年生

Keywords: 場所の記憶, 場所の力, 瓦産業, 市岡パラダイス, 大阪市港区

1. はじめに

大阪市港区は1868(明治元)年の大阪港の開港に伴い、明治時代から昭和戦前期にかけて大阪の玄関口として市街地化が進行した(大阪市・大阪開港100年記念祭委員会, 1967: 4; 水内ほか, 2008: 142)。例えば水内ほか(2008)は、1932(昭和7)年7月から1933(昭和8)年11月にかけて雑誌『大大阪』において連載された「大大阪新開地風景」を基に、昭和初期の港区の場所のイメージを考察しており、港区がビルディング、カフェ、洋品雑貨屋、劇場、寄席、温泉などが立地するハイカラな地域であったことを明らかにしている。しかし、港区は第二次世界大戦中の空襲によって壊滅的な被害を受けたため、戦前期のハイカラな側面を彷彿させる都市空間や建造物はほとんど現存しない。一方で、1984年に発表された永瀧五郎の小説『市岡パラダイス』や、2009年1月に大阪市立市岡東中学校(大阪市港区)で披露された朗読劇『お守りの言葉』のように、第二次世界大戦前における港区の場所の記憶をテーマとする作品が制作されている(港新聞2009年2月15日)。後者の朗読劇は住民が主体となって作り上げたものであり、Hayden(1995)が主張する場所の力を生かした地域活動の実践とも言える。

以上より、港区では近代以降にハイカラな側面を有する場所というイメージが確立し、その後、場所の記憶を通して場所のイメージが現代に継承され、場所の力が生み出されたと思われる。そこで本稿では、大阪市港区の地域史研究を通じて港区の場所の系譜を明らかにし、モダン都市大阪の場所の記憶と場所の力がどのように生み出されたかを考察する。本研究で用いる資料は、行政刊行物や全国紙のほか、港新聞などの地域情報誌、住宅地図、空中写真、2021年8月に実施したNPO法人南市岡地域活動協議会に対する聞き取り調査で得た情報である。

2. 大阪市港区の場所の系譜

まずは大阪市港区の場所の系譜を整理し、場所の記憶や場所の力を生み出すと考えられるものを特定する。港区では、江戸期より新田の開発や瓦問屋の集積が進んでいたが、明治期の大阪港の開港を機に市街地化が進んだ(大阪市港区役所, 1956: 21; 毎日新聞2016年10月27日)。その立役者のひとつは、市岡土地株式会社(1916(大正5)年6月設立)のような土地会社であった(東洋経済新報1927年6月20日)。特に市岡土地株式会社が1923(大正12)年11月に始め

た市岡パラダイスの建設は、港区の市街化を促した(橋爪, 2000: 95; 東洋経済新報1927年6月20日)。このほか大正時代から昭和戦前期にかけて、大阪市立運動場、港新地、大阪市初の市電の開通をはじめ、近代における港区の繁栄を象徴するものが次々と誕生した(大阪市港区役所, 1956; 大阪市・大阪開港100年記念祭委員会, 1967; 水内ほか, 2008; 橋爪, 1996; 黒田, 2020)。

しかし、港区は第二次世界大戦中の空襲でほぼ全域が焼失し、大阪市の中で最も人口が減少した(朝日新聞1945年11月9日)。そのため戦後は、世界に類を見ない戦災復興事業や、大規模な公営住宅団地の整備、地下鉄をはじめとする交通網の整備、国際見本市会場の建設などが行われた(大阪市港区役所, 1956: 251, 水内ほか, 2008: 228)。

3. 尻無川沿いに集積する瓦産業

次に、尻無川沿いの瓦産業に着目し、場所の記憶と場所の力が生み出される過程を明らかにする。大阪市港区南市岡地域の最南端に位置する尻無川沿いの地域では、江戸時代より瓦問屋が集積している(毎日新聞2016年10月27日)。1945年6月4日に米軍が撮影した空中写真より、当地域は第二次世界大戦で被災したことが分かる。聞き取りによれば、当地域は港区で唯一、行政による区画整理を経ずに復興し、戦後も瓦産業の集積が進んだ。この事象は、戦災で壊滅状態となった港区の戦前と戦後を結びつけることができるため、港区の場所の力を考察する上で重要なものであると言えよう。聞き取りによれば、瓦産業の経営者は職住一致または職住近接であり、長年にわたり小中学校のPTAや地域活動協議会で会長や役員を務めている。彼らは地域活動を主導しており、場所の記憶や場所の力を作り出す過程において重要な存在となっている。その産物として、朗読劇『お守りの言葉』の上演や、NPO法人南市岡地域活動協議会が発行する広報誌「南市岡すき屋根ん通信」が挙げられる。

参考文献

大阪市・大阪開港 100 年記念祭委員会 (1967)『大阪港 100 年のあゆみ』, 大阪市・大阪開港 100 年記念祭委員会。

大阪市港区役所編 (1956)『港区誌』, 大阪市港区創設三十周年記念事業委員会。

黒田勇 (2020)「20 世紀初頭の電鉄事業とメディアスポーツ」のための研究ノート—第 6 回極東競技大会 (1923) の開催を中心に—, 関西大学社会学部紀要 51-2, 141-163 頁。

ドロレス・ハイデン (2002) (後藤春彦・篠田裕見・佐藤俊郎訳)『場所のカーパブリック・ヒストリーとしての都市景観—』, 学芸出版社。[Dolores Hayden (1995) *The power of place: urban landscapes as public history*. MIT Press.]

永瀧五郎 (1984)『市岡パラダイス』, 講談社。

橋爪紳也 (1996)『大阪モダン—通天閣と新世界—』, NTT 出版。

橋爪紳也 (2000)『日本の遊園地』, 講談社。

水内俊雄・加藤政洋・大城直樹 (2008)『モダン都市の系譜—地図から読み解く社会と空間—』,

ナカニシヤ出版。